

Ⅱ 調査結果の要約

調査結果の要約

調査全般について

足立区政に関する世論調査は昭和47年以来38回を数える。今回の調査回答の特徴は、(1)有効回収率の向上 (2)定住意向の上昇 (3)区政満足度の3年連続上昇 である。

回収率は51.1%、個人情報保護法の制定（平成15年）以降で初めて50%を超えた。また引き続き足立区に住み続けたいという定住意向は78.2%で、調査の回収方法を訪問回収から郵送に変更した平成13年度以降で最高値であった。区政の取り組みを総合的に評価する区政満足度は51.8%で、これも平成2年以降の最高値であった。

一方、今回の単年度テーマである「区の魅力・イメージ」の項目では、足立区に愛着をもっている層が67.0%であるのに対し、足立区に誇りをもっている層は34.8%と、両者の格差が目立つ結果となった。

1 定住性、定住意向、暮らしやすさ評価

(1) 定住性と定住意向

本調査では、まず区民の居住年数や定住意向を把握するとともに、各分野ごとの暮らしやすさの評価をきいた。

区民の居住年数は、「20年以上」の【長期居住者】が67.9%と7割近くを占めている。また、「5～10年未満」(8.2%)と「10～20年未満」(12.0%)を合わせた【中期居住者】は20.2%、「1年未満」(2.9%)と「1～5年未満」(8.7%)を合わせた【短期居住者】は11.6%となっている。

地域ブロック別でみると、第9ブロックでは、【長期居住者】が81.1%と8割を超えているほか、第12ブロックでも77.6%と8割近くを占めている。

今後の定住意向をみると、今後も区内に「ずっと住み続けたい」は40.3%で、これに「当分は住み続けたい」(37.9%)を合わせた【定住意向】は78.2%を占めている。

また、前回調査の結果と比較すると、【定住意向】は、前回の74.4%から3.8ポイント上昇している。

(2) 暮らしやすさ評価

次に地域の暮らしやすい点、暮らしにくい点についてきくと、居住地域の暮らしやすいと感じる点は、「普段の買い物が便利」が56.9%で最も高く、以下、「公園や緑が多い」(49.8%)、「通勤や通学などの交通の便がよい」(39.6%)、「物価が安い」(32.2%)、「医者や病院の便がよい」(28.3%)の順で続いている。

地域ブロック別で暮らしやすさをみると、全体で第1位の「普段の買い物が便利」は、第4、第6、第8ブロックで、それぞれ72.8%、69.9%、72.9%と7割前後を占め、とくに高くなっている。全体で第2位の「公園の緑が多い」は第6、第7、第9、第12ブロックで、いずれも7割近くを占めている。

性・年代別にみると、暮らしやすい点としては、全体で第1位の「普段の買い物が便利」は、女性の全年代で6割前後と高くなっている。全体で第2位の「公園や緑が多い」は、30代女性、

40代男性、60代女性で、6割近くを占めている。

これに対して、暮らしにくいと感じる点は、「治安がわるい」が27.5%を占めて最も多く、以下、「通勤や通学などの交通の便がわるい」(21.1%)、「体育施設(体育館やプールなど)が利用しにくい」(20.8%)、「医者や病院の便がわるい」(19.6%)、「文化施設(図書館やホールなど)が利用しにくい」(16.5%)、「普段の買い物が不便」(14.4%)の順で続いている。

地域ブロック別でみると、全体で第1位の「治安がわるい」は、第8ブロック、第9ブロックで4割近くを占めている。全体で第2位の「通勤や通学などの交通の便がわるい」は、第9ブロックで51.4%と、最も高くなっている。

性・年代別にみると、全体で第1位の「治安がわるい」は、20代男性で53.7%と5割を超えているほか、20代女性、30代男女、40代男性でも4割を超えている。

このように、地域的には中心部において、また女性では全年代にわたって“買い物の便利さ”が高評価を得ているほか、東部地域等では“公園や緑”の満足度も高くなっている。その一方で、若い世代の男女ともに“治安”について厳しい評価がなされている。

こうした各分野への評価を踏まえて、区全体の“暮らしやすさ”を評価すると、区全体としては、【暮らしやすい】(「暮らしやすい」+「どちらかといえば暮らしやすい」)の評価が82.7%と8割を超えているが、地域差がかなりみられる。

調査結果では、区政の満足度が高くなるほど定住意向が高くなる傾向が鮮明に表れている。暮らしやすさの評価の高い分野については、さらに充実を図るとともに、厳しい評価のなされている分野については、改善を図ることで区民の定住性を高めていくことが重要な課題といえよう。

2 区の魅力・イメージ

(1) 区に対するイメージ

区に対するイメージ(印象)は、「公園が多い街」(31.7%)と「治安が悪い街」(31.7%)が、いずれも3割を超えて多くなっている。また、「買い物の便利な街」(28.9%)、「交通の便利な街」(23.5%)、「緑の豊かな街」(18.9%)も高くなっており、前述の“地域の暮らしやすさ・暮らしにくさ”への評価と、ほぼ対応する結果となっている。

また、地域ブロック別でみると、第12ブロックでは、「公園が多い街」が57.6%と6割近くを占めているほか、「緑の豊かな街」(35.3%)も全地域ブロック中最も高くなっている。また、第6、第7、第8、第9、第11ブロックでも「公園が多い街」が4割を超えている。一方、第9、第11ブロックでは、「治安が悪い街」が、それぞれ45.9%、44.0%と4割を超え、他のブロックより高くなっている。このように地域別のイメージも“地域の暮らしやすさ・暮らしにくさ”における地域ブロック別の評価と概ね対応しており、暮らしやすさに対する評価が“区のイメージ”を決定する上で重要な意味をもっていることが明確に表れている。

さらに性・年代別でみると、男性では、20代、30代で「治安が悪い街」がそれぞれ58.2%、58.5%と6割近くを占め、他の年代より高くなっている。女性では、20代、30代で「治安が悪い街」がそれぞれ57.3%、51.0%と5割を超え、他の年代より高くなっている。このように、暮らしやすさ評価のところで、治安への厳しい評価をしていた若い世代の男女ともに、それがそのまま“区のイメージ”につながっていることがわかる。

定住・移転意向別でみると、定住意向が高くなるにつれて、「公園が多い街」、「緑の豊かな街」、

「買い物の便利な街」、「交通の便利な街」は上昇しているが、“区外に転出したい”層では、「治安が悪い街」が67.4%と定住意向層を大きく上回っており、治安への厳しい評価が転出する要因のひとつとなっていることがうかがわれる。

（２）区に対する気持ちと誇りとするもの

次に、区に対する愛着や誇りに繋がるものについてきくと、「神社やお寺などの歴史的建造物」（18.7%）が最も高く、ほか、「足立の市民活動が報道番組・新聞・雑誌等に取り上げられること」（18.5%）、「川や森などの自然環境」（13.8%）、「定期的開催されるお祭りやイベント」（12.9%）の順で続いている。

地域ブロック別でみると、第11ブロックで、「神社やお寺などの歴史的建造物」が30.3%と最も高くなっているほか、第1、第3、第13ブロックでも2割台半ばを示している。第2、第3、第7、第12、第13ブロックでは、「川や森などの自然環境」が2割前後を占めている。また、第12ブロックでは、「定期的開催されるお祭りやイベント」（22.4%）が最も高くなっている。

また、足立区に対する気持ちを、【そう思う】（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）の多い順でみると、〈足立区に愛着をもっている〉が67.0%で最も高く、以下、〈足立区の住民には好きな人が多い〉（39.6%）、〈足立区に誇りをもっている〉（34.8%）、〈足立区を人に勧めたい〉（32.6%）、〈自分は足立に貢献している〉（28.6%）の順で続いている。

地域ブロック別でみると、〈足立区に愛着をもっている〉は、第1ブロックで【そう思う】が73.8%と最も高くなっているのをはじめとして、多くの地域ブロックで6割を超えているが、第2ブロックは54.6%と、唯一6割を下回っている。〈足立区に誇りをもっている〉は、第1ブロックで44.1%と最も高く、第9ブロックでも4割を超えている。

区民が、区に対する愛着や誇りにつながるものとして、“歴史的建造物”と“市民活動”があげられていたが、こうした区民が区のシンボルとして思い浮かべるものをきいたところ、「西新井大師」が33.9%で最も高く、以下、「花火大会」（24.2%）、「荒川河川敷」（12.8%）、「公園（舎人公園等）」（6.1%）の順で続いている。

地域ブロック別でみると、第11ブロックでは「西新井大師」が57.8%を占め、最も高くなっているほか、第3、第4、第10、第12ブロックも4割を超えている。また、第1、第5、第6、第7、第8、第9ブロックでは、「花火大会」が3割前後を占め、他のブロックより高くなっている。さらに、第1、第2ブロックでは、「荒川河川敷」が、それぞれ26.2%、23.2%と他のブロックより高くなっている。

このように、区民の多くは区に対する愛着や誇りを持っているが、地区によってはやや愛着心の薄いところもあることがわかる。また、区の誇りにつながるものや、区のシンボルについても、かなり地域特性があることがわかる。

区民一人ひとりが、身近な地域の生活、人々との交流や活動に愛着と誇りを持つことが、足立区全体への愛着度を高めることにつながると言えるだろう。

3 日常の区民生活

(1) 環境、防災、防犯

環境のために心がけていることは、「ごみの分別に気をつけている」が86.9%で最も高く、以下、「ごみやすいがらのポイ捨てをしないようにしている」(70.2%)、「節水や節電などの省エネルギーを心がけている」(60.8%)、「マイバックを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(46.0%)の順で続いている。

また、大地震などの災害に備えていることは、「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」が56.9%で最も高く、以下、「自宅に消火器を備えている」(33.8%)、「非常食・飲料水を備蓄している」(30.9%)、「非常持ち出し品をまとめている」(26.7%)、「家具の転倒防止の対策を行っている」(24.2%)の順で続いている。

地域ブロック別でみると、第6、第9、第12ブロックでは、「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」が、いずれも6割台半ばを占めて、他のブロックより高くなっている。一方、第3、第4、第5ブロックでは、「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」は5割前後とやや低くなっている。

このように、全体としては“区の指定した避難場所”の周知度は高いとはいえ、地域によっては十分に認知されていないところもあり、より一層の周知度の向上が必要といえよう。

前述のとおり、若い世代を中心として、区の“治安”に対して厳しい評価がなされていたが、区民は日頃どのような防犯への取り組みをしているのだろうか。

日頃の防犯対策としては、「ひったくり防止ネットの使用や、バックを壁側に持つなどする」が41.3%で最も高く、これに「鍵の取り替えや窓の強化など、家への侵入をしづらくする」が27.6%で次いでいる。とくに、女性では、全年代にわたって、「ひったくり防止ネットの使用や、バックを壁側に持つなどする」が男性を上回り、60代では64.4%を占めている。

また、日頃から防犯対策を行っている人に、そのきっかけをきいたところ、「治安が悪化したと感じたから」が51.1%で最も高く、これに、「自分や家族、知人が被害にあった(あいそうになった)から」(31.1%)、「いろいろな防犯設備があるのを知ったから」(17.9%)の順で続いている。

性・年代別でみると、男性では、30代、40代で「治安が悪化したと感じたから」が、それぞれ65.5%、60.5%と他の年代より高くなっている。また、50代では、「自分や家族、知人が被害にあった(あいそうになった)から」が46.4%で最も高くなっている。女性では、20代から50代で「治安が悪化したと感じたから」が5割を超えている。また、20代では、「自分や家族、知人が被害にあった(あいそうになった)から」が40.8%と、最も高くなっている。

このように、女性で「ひったくり」等への防犯対策をする背景には“治安の悪さ”への強い警戒心があることがわかる。前述した暮らしやすさ評価や区のイメージの結果からもわかるように“治安”を良くすることは最も重要な課題の一つであり、区民一人ひとりの防犯意識を高めるとともに、防犯対策の一層の充実が求められている。

(2) 市民活動

前述したとおり“区に対する愛着や誇りにつながるもの”として“歴史的建造物”と並んで“市民活動”があげられていたが、区民の地域活動の状況はどのようなものであろうか。

区民と区に関わる活動への参加状況は、「町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動」が28.1%で最も高く、これに「区が主催する各種イベント、催し物」が20.2%で次いでいる。

性・年代別でみると、男性では、「町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動」は、50代以上で3割を超えている。女性では、30代、40代で「町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動」が、それぞれ36.8%、38.7%と他の年代より高くなっている。また、30代から50代では、「区が主催する各種イベント、催し物」も2割台半ばを占めている。地域活動の中心である「町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動」について、参加する年代に偏りがあること、また、他の活動への参加者が少ないこと等が特徴的である。

今後参加したいと思う活動をみると、「町会・自治会の運営に関する活動」(12.5%)、「高齢者の支援に関する活動」(11.9%)、「資源のリサイクルなどに関する活動」(10.7%)、「生涯学習ボランティアなど地域学習に関する活動」(10.3%)と各活動に分散している。

性・年代別でみると、男性では、「町会・自治会の運営に関する活動」は、60代、70歳以上で2割前後を占め、他の年代より高くなっている。女性では、60代で「町会・自治会の運営に関する活動」が17.5%と最も高くなっている。また、60代、70歳以上では、「高齢者の支援に関する活動」が2割近くを占め、他の年代よりやや高くなっている。

こうした区民の参加意欲を実際の参加に結びつけられるよう、参加への支援を充実させるとともに、各種活動内容の充実と多様化が求められる。

4 区 政

(1) 区の取り組み

以前と比べてよくなったと思う区の取り組みは、「都市開発」が40.4%で最も高く、以下、「交通対策」(33.6%)、「自然・緑化対策」(31.3%)、「資源環境対策」(26.9%)の順で続いている。

地域ブロック別でみると、全ブロック中10ブロックで、「都市開発」が第1位を占めているが、第7、第13ブロックでは「自然・緑化対策」が、第9ブロックでは「交通対策」が、それぞれ第1位となっている。

前回の調査結果と比べると、前回第3位であった「都市開発」(30.0%)が、今回40.4%と10.4ポイント上昇して、第1位になっている。また、「交通対策」は今回順位を下げたものの、ポイントは若干上がっている。

今後、特に力を入れてほしいと思う区の取り組みは、「高齢者支援」が38.3%で最も高く、以下、「交通対策」(25.7%)、「低所得者対策」(18.2%)、「子育て支援」(18.0%)の順で続いている。

地域ブロック別でみると、全13ブロック中11ブロックで「高齢者支援」が第1位となっているが、第2、第7ブロックでは「交通対策」が最も高くなっている。

前回の調査結果と比較すると、今回も前回同様、第1位は「高齢者支援」、第2位は「交通対策」となっているが、前回第6位であった「低所得者対策」(15.2%)が、今回18.2%と3ポイント増加し、第3位となっている。

「以前と比べてよくなったと思う区の取り組み」と「今後力を入れてほしいと思う取り組み」を比較すると、評価が20%を下回り、要望が20%を超える項目は「高齢者支援」である。また、評価が20%を超えて高く、要望が20%以下の項目は「都市開発」「自然・緑化対策」「資源環境対策」であり、評価が20%を超えて高いが、要望も20%を超えている項目は、「交通対策」である。

以上のように、近年、区が積極的に取り組んできた「都市開発」については、極めて高い評価が与えられているほか、「自然・緑化対策」についても、肯定的な評価がなされている。調査結果

においても、「北千住駅周辺」「西新井駅周辺」「日暮里・舎人ライナー沿線」等の目覚ましい発展が、区民の目にも強い印象を与えていることや、暮らしやすさ評価における“公園や緑”の評価の高さも、上記の結果を裏付けるものといえよう。

しかし、その一方、超高齢化社会の中にあって、足立区においても、高齢者支援の充実を求める声が極めて高くなっており、介護サービスから生きがいづくりまで、高齢者施策のさらなる充実が求められる。また、20代、30代女性を始めとする若年層は「子育て支援」に力を入れてほしいという声が高く、子育て施策の充実が求められている。

地域によっては「交通対策」の充実を求める声が依然として高いことも、今回の結果から見る事ができる。

（２）区への満足度

次に、現在の足立区政への満足度をきくと、「満足」が6.3%で、これに「やや満足」（45.5%）を合わせた【満足層】は51.8%である。一方、「やや不満」（21.0%）と「不満」（7.4%）を合わせた【不満層】は28.3%である。

前回調査結果と比較すると、【満足層】は、前回の47.6%から4.2ポイント上昇している。一方、【不満層】も、前回の27.0%から1.3ポイント微増している。

地域ブロック別でみると、第11、第12ブロックでは、【満足層】が、それぞれ60.6%、62.4%と6割を超え、他のブロックより高くなっている。一方、第2、第9ブロックでは、【不満層】が、それぞれ39.4%、37.8%と4割近くを占めている。

全体として、区の満足度の高いものは、地区によっては十分とはいえないところもある。「高齢者支援」を中心として「交通対策」「子育て支援」等、各地域の課題の解決に取り組んでいくことが求められる。

（３）区民と行政の協働

区民にとって安心で安全に生活できる足立区をつくるには、行政と区民が協働していくことが重要であるが、区政への参加・協力意向をみると、「積極的に参加・協力したい」は4.1%で、これに「ある程度は参加・協力したい」（49.0%）を合わせた【参加意向あり】は53.1%を占めている。一方、「あまり参加・協力したくない」（9.9%）と「参加・協力したくない」（3.9%）を合わせた【参加意向なし】は13.8%である。前回の調査結果と比較すると、【参加意向あり】は、前回の54.3%から1.2ポイントと、わずかながら低下している。

また、性・年代別でみると、男性では、40代で【参加意向あり】が62.1%を占めているほか、60代でも6割近くを占めている。女性では、50代で【参加意向あり】が59.6%を占めているほか、20代、60代でも6割近くを占めている。

調査結果によれば、区政への参加意向の強さと定住意向や区政満足度の高さとの間には、密接な相関関係があり、各年代にわたって参加意向のある住民を実際の参加へとつなげていくことが区民の定住性と区政への満足度を高めることにつながるといえるだろう。

また、区政への意見を言うことのできる「区民の声」や「パブリックコメント制度」、「区民モニター」の利用意向をみると、「ぜひ利用したい」は3.1%で、これに「機会があったら利用したい」（63.6%）を合わせた【利用したい】は66.7%を占めており、こうした「区民の声」を反映させる仕組みを充実させることが求められる。